

令和5年度全国学力・学習状況調査＝紀宝町の結果概要＝

令和5年9月8日 紀宝町教育委員会

1. 紀宝町の平均正答率と年度間変化の様子

「標準化得点」から見た紀宝町の子どもたち

小6	令和5年	令和4年	令和3年	令和元年
国語	98	96	99	100
算数	98	97	100	99
理科		97		
全国	100	100	100	100

中3	令和5年	令和4年	令和3年	令和元年
国語	98	99	98	99
数学	99	98	99	100
理科		98		
英語	96			101
(話す)	96			
全国	100	100	100	100

- ※ 斜線部は未実施
- ※ 令和2年度の学力調査は中止
- ※ 「標準化得点換算ツール」(文部科学省)

「平均正答率」は、問題の難易度が違うため、単純に年度間比較はできないという弱点があります。「標準化得点」は、全国の平均正答率を100として、年度間得点を相対的に比較しやすくしたものです。

令和5年度の調査結果では、小学校・中学校ともに全国の「平均正答率」を下回りました。小学校の国語では、各学校での取組により一定の成果が現れて昨年度より少し全国との差は縮まりましたが、前回全国平均を上回った中学校の英語において全国平均を大きく下回る結果となっており、今後の課題となります。

ただ、紀宝町内の小中学校の年度間変化を「標準化得点」で表すと、教科による得点の上下はありますが、全国と大きな差はないと言えます。このことは、近年、紀宝町内の各学校が授業を工夫して改善に努めた学力向上推進の取組の成果であり、紀宝町の子どもたちの学力の向上と安定に寄与していると言えます。

「令和5年度の調査結果(平均正答率と正答数)」

小学校	国 語		算 数	
紀宝町	62%	8.7/14 問	59%	9.4/16 問
三重県	67%	9.4/14 問	62%	9.9/16 問
全 国	67.2%	9.4/14 問	62.5%	10.0/16 問

中学校	国 語		数 学		英 語 ()内は「話すこと」	
紀宝町	66%	9.9/15 問	48%	7.2/15 問	36% (4.2%)	6.2/17 問 (0.2/5 問)
三重県	69%	10.3/15 問	51%	7.7/15 問	45% (公表なし)	7.7/17 問 (公表なし)
全 国	69.8%	10.5/15 問	51.0%	7.6/15 問	45.6% (12.4%)	7.7/17 問 (0.6/5 問)

2. 平均無解答率から見た年度間変化の様子

一般的に、長い文章を読み取る問題や算数・数学の「文章問題」において、子どもたちは解答することをあきらめ、「無解答」となる割合が高まる傾向があります。

紀宝町の小中学校では、読む力、考える力、書く力、発表する力などの向上を目指して、普段の授業やテストにおいて「難しいと思える問題に出会ったとしても、最後まであきらめず取り組んでみよう」という指導を継続・徹底してきました。

その結果、小学校で若干課題は残るものの、紀宝町の平均無解答率は低い傾向（粘り強く学習に取り組める児童生徒が増加傾向にある）にあり、紀宝町の子どもたちの成長につながっているとと言えます。

＜紀宝町の小学6年生の平均無解答率の推移＞

国語・算数ともに全国平均とほぼ同じような傾向で推移していましたが、今年度の調査結果からは、残念ながら2教科ともに全国平均を上回っております。（好ましくない状況）

国語では記述式問題で、算数では短答式・記述式問題で無解答率が高い傾向となっており、今後の課題であると言えます。

＜紀宝町の中学3年生の平均無解答率の推移＞

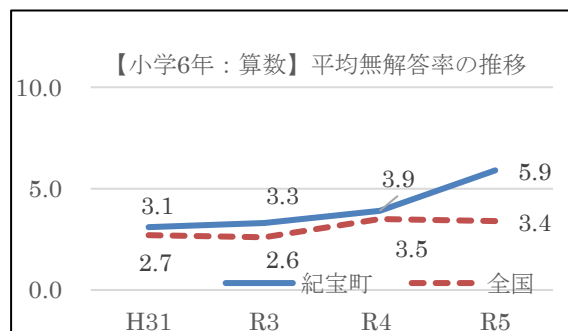
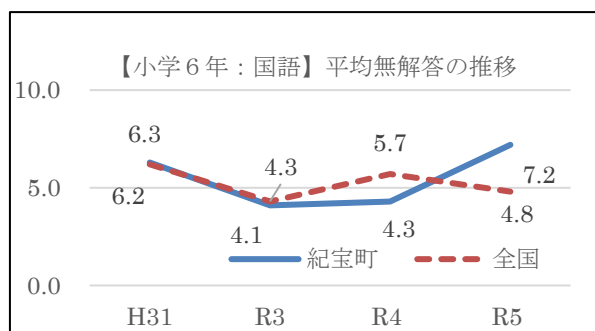
全教科において、過去4回の調査において全国の平均無解答率を下回っており、好ましい状況であると言えます。しかし、いずれの教科においても無解答率がこれまでの最高値となっており、日々の学習活動も含めて改善に取り組む必要があります。

また、英語については、全国平均をやや下回る結果となっておりますが、「話すこと」における調査では、残念ながら全国を上回っており、課題があると言えます。

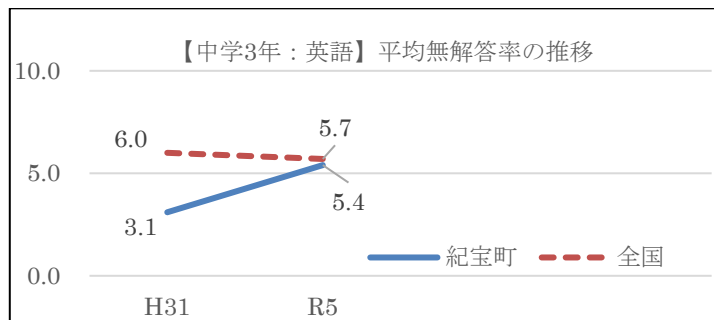
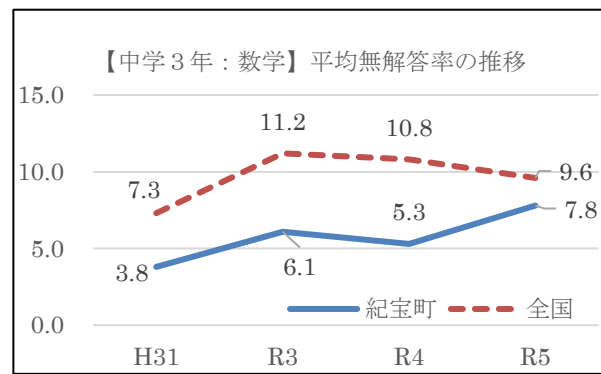
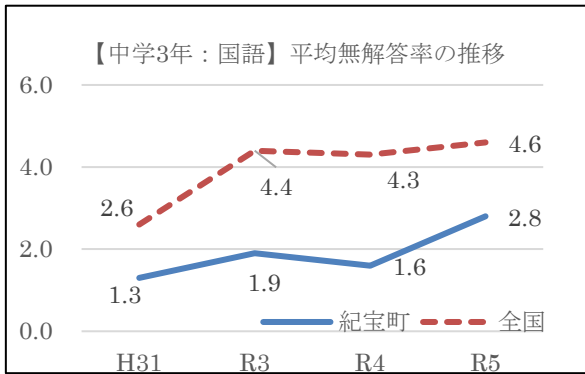
紀宝町の 調査結果	小 学 校		中 学 校			
	国 語	算 数	国 語	数 学	英 語	【話すこと】
平均無解答率（紀宝町）	7.2%	5.9%	2.8%	7.8%	5.4%	[21.3%]
平均無解答率（全 国）	4.8%	3.4%	4.6%	9.6%	5.7%	[19.4%]

※町内各学校においてこれまで取り組んできたことを総括し、自分の思いや考えを表現することを大切にしながら、より思考を深める指導を継続する必要があります。

【小学校】



【中学校】



3. 各教科における『学習指導要領』の領域ごとの特徴

【小学校】

◎…成果である問題趣旨、▲…課題である問題趣旨

国 語	<p>領域では、これまで課題であった「読むこと」について、日頃の学習の成果が表れていますが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項（漢字の書き取り）」「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られます。</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる</p> <p>◎文章の種類とその特徴について理解している</p> <p>◎送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができる</p> <p>▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる</p> <p>▲図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる</p> <p>▲情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる</p> <p>▲必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる</p>
--------	--

算 数	<p>領域では、「数と計算」「図形」に課題が見られます。「変化と関係」「データの活用」については、全国平均をやや下回る結果となっています。</p> <p>◎正方形の意味や性質について理解している</p> <p>◎一の位が0の2つの2位数について、情報の計算をすることができる</p> <p>◎伴って変わる二つの数量について、表からの変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる</p> <p>▲高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる</p> <p>▲（ ）を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができる</p> <p>▲示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかを判断する</p> <p>▲（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考慮することができる</p> <p>▲長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している</p> <p>▲二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる</p>
--------	--

【中学校】

◎…成果である問題趣旨、▲…課題である問題趣旨

国 語	<p>領域では、「書くこと」や「我が国の言語文化に関する事項」などでは全国平均を上回る結果が出ています。特に記述式の問題では成果が表れています。一方、「話すこと・聞くこと」「読むこと」、「情報の扱い方に関する事項」「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られます。</p> <p>◎自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる</p> <p>◎聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる</p> <p>◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる</p> <p>▲具体と抽象など情報と情報との関係について、理解することができる</p> <p>▲意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる</p> <p>▲文脈に即して漢字を正しく書くことができる</p> <p>▲文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる</p> <p>▲目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる</p>
--------	--

数 学	<p>領域では、「数と式」では全国平均を上回る結果が出ていますが、「図形」、「関数」において課題が見られます。また、「データの活用」では単元によって結果に違いも見られます。問題の形式では、記述式問題への対応に課題も見られます。</p> <p>◎四分位範囲の意味を理解している（データの活用[全国比+20.7pt]） ◎自然数の意味を理解している ◎数と整式の乗法の計算ができる</p> <p>▲累積度数の意味を理解している（データの活用[全国比-28pt]） ▲事象と理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる（関数） ▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる（図形） ▲条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる（図形） ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる（関数）</p>
英 語	<p>「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」すべての領域において課題が見られます。そのような中ですが、以下の◎では全国を上回る結果が出ています。</p> <p>◎日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができる ◎日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる</p> <p>▲情報を正確に聞き取ることができる（聞くこと） ▲未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができる ▲疑問詞を用いた一般動詞の二人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができる ▲社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができる ▲日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができる ▲日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる ▲社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる</p>

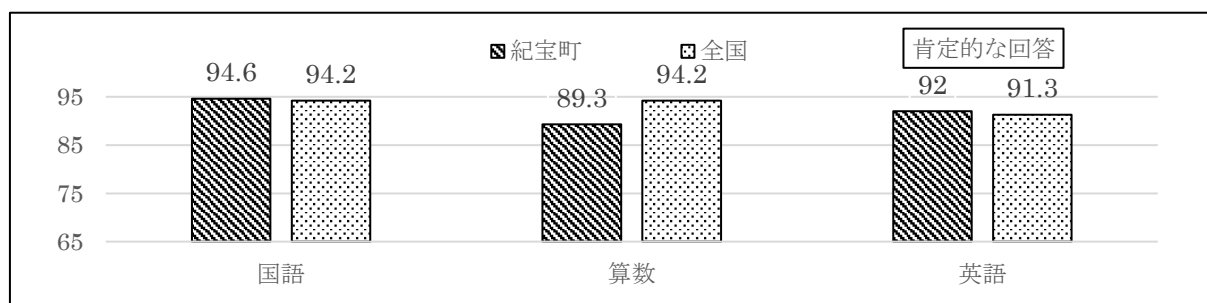
4. 「児童・生徒質問紙調査」の特徴的な傾向

学習意欲、学習方法、生活の諸側面等に関する調査です。特徴的な傾向を考察します。

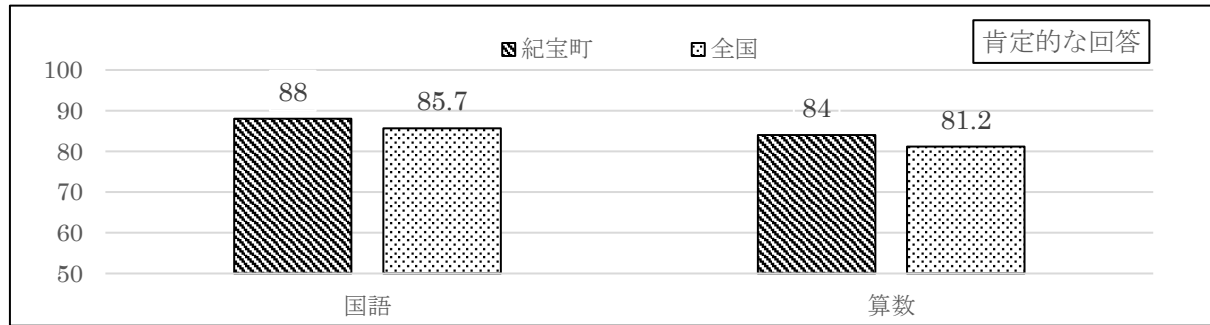
※「肯定的な回答」=『当てはまる』+『どちらかと言えば当てはまる』

学びの充実に向けて 【小学校】

Q1. 国語・算数・英語の勉強は大切だと思いますか

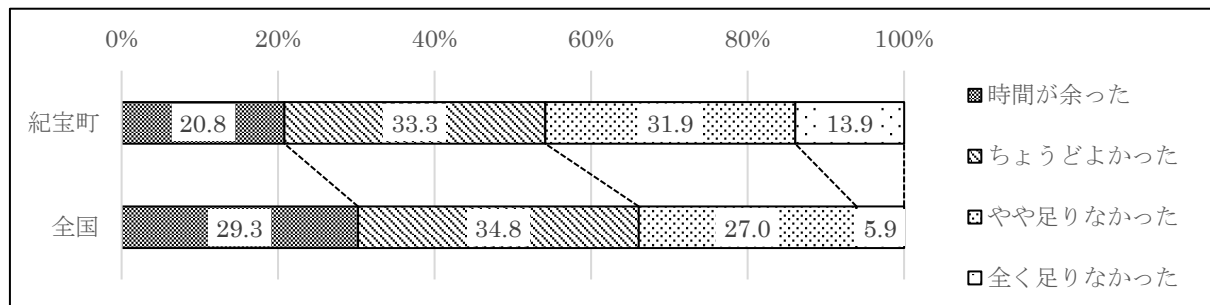


Q2. 国語・算数の授業の内容はよくわかりますか

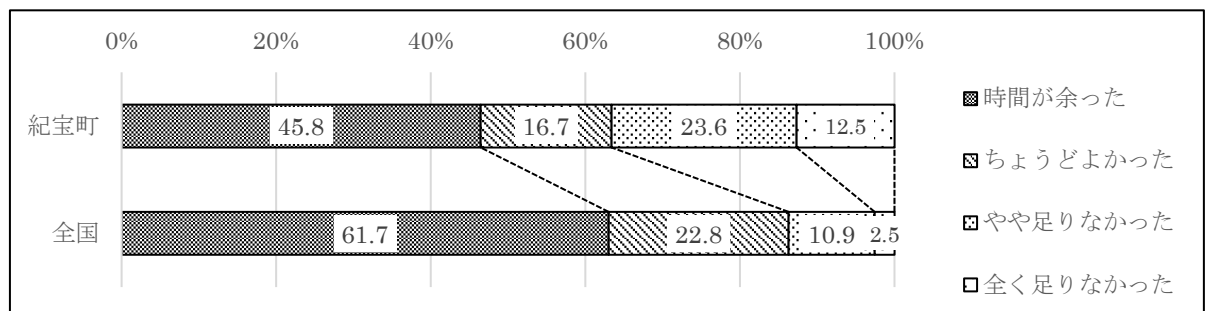


Q3. 国語・数学の解答時間は十分でしたか

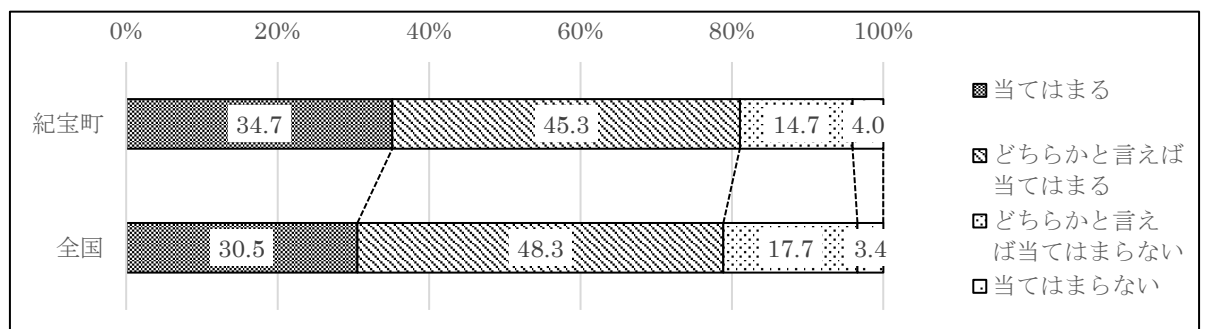
【国語】



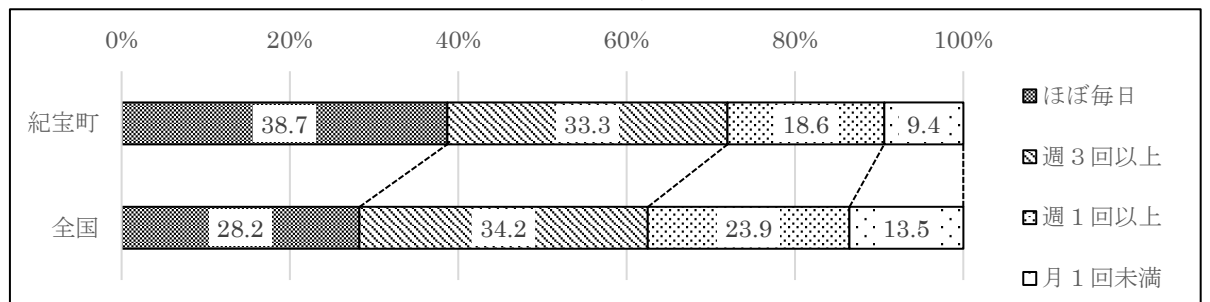
【算数】



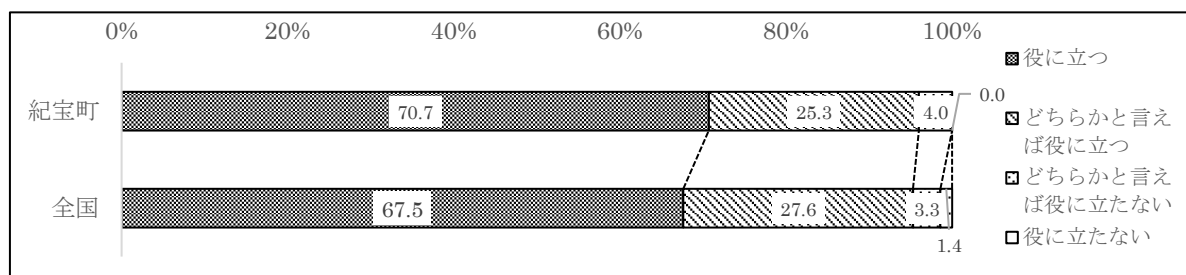
Q4. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



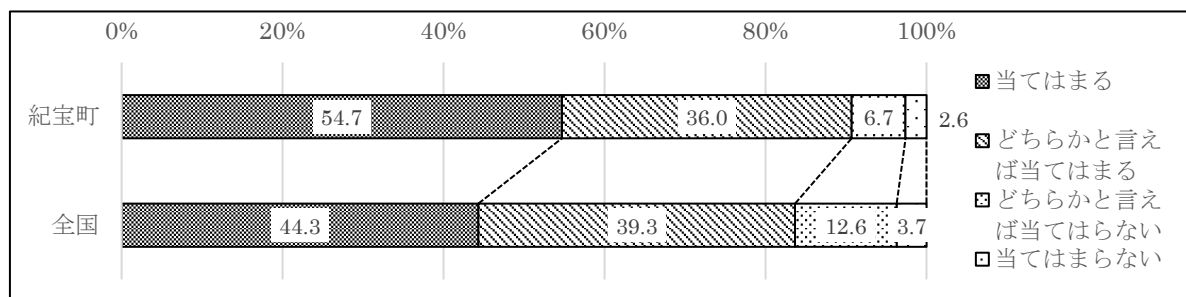
Q5. 授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使いましたか



Q6. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか



Q7. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



◎[小 Q1~Q3]:各教科の大切さについては、算数で全国平均を 4.9pt 下回ります。日頃の授業についても肯定的な回答が全国平均を上回っていますが、今回の「調査解答時間」についての質問では、国語・算数ともに全国平均と比較して否定的な(時間が足りなかった)結果が表れています。このことが正答率の差の要因の一つとも考えられます。

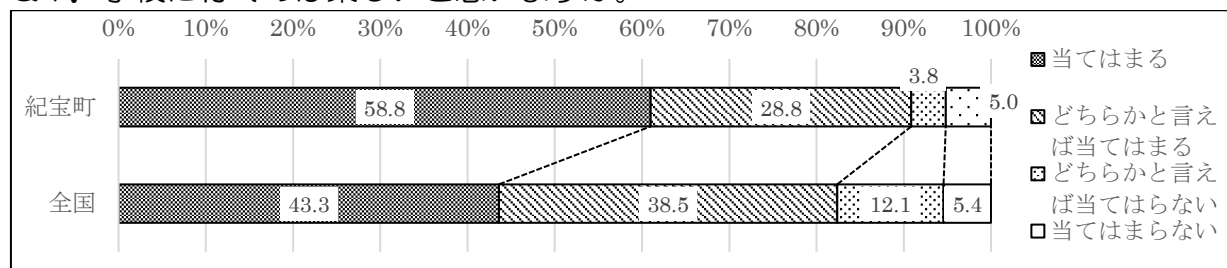
◎[小 Q4]:学習に取り組む姿勢は、肯定的な回答が全国平均よりも 1.2pt 上回っており、前向きに取り組んでいることが表れています。児童一人ひとりの頑張り及各学校の授業改善の成果であると考えます。

◎[小 Q5・6]:「授業で PC・タブレットなどの ICT 機器の使用」に対して、週3回以上と回答をした割合は、全国平均を 9.6pt 上回っており、また「学習に有効である」と肯定的に回答した割合も 0.9pt 上回っています。ICT 機器の活用は、授業の工夫・改善にとって大きな力となり得ます。昨年度、各学校に整備した電子黒板やその他 ICT 機器を活用して、子どもたちがより能動的で創造的に学習が進められるよう、さらに授業改善に取り組む必要があると考えます。

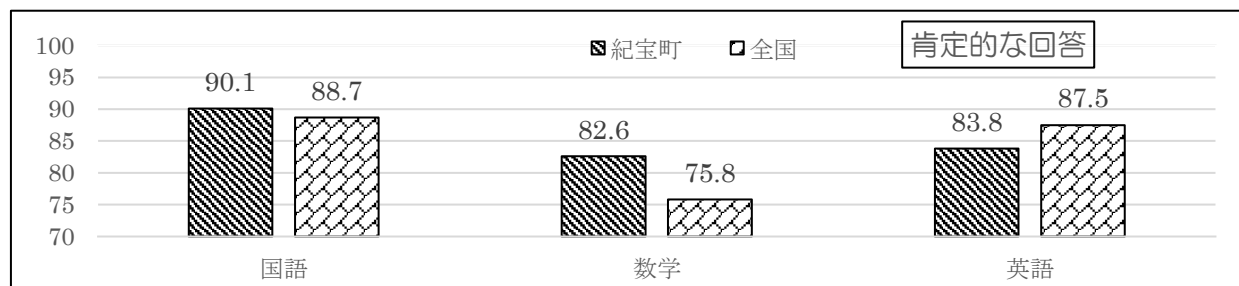
◎[小 Q7]:この設問では道徳となっていますが、新学習指導要領がこれからの教育に求めている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、紀宝町内の各学校・各教科において「話しあい、学びあい」を大切にされた授業改善を進めています。子どもたちは授業中に受け身になることなく、主体的に学びに参加することで、一人ひとりの学びが保証されていると言えます。肯定的な割合は、全国平均よりも+7.1pt となっており、各学校での取組が進んでいることを表しています。

【中学校】

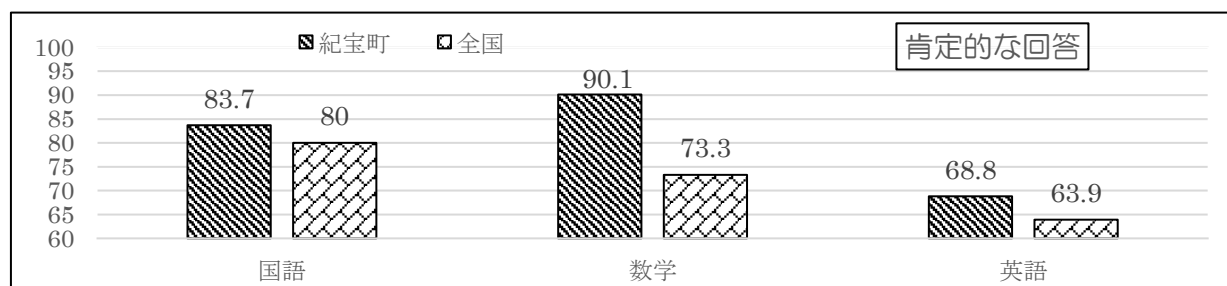
Q1. 学校に行くのは楽しいと思いますか。



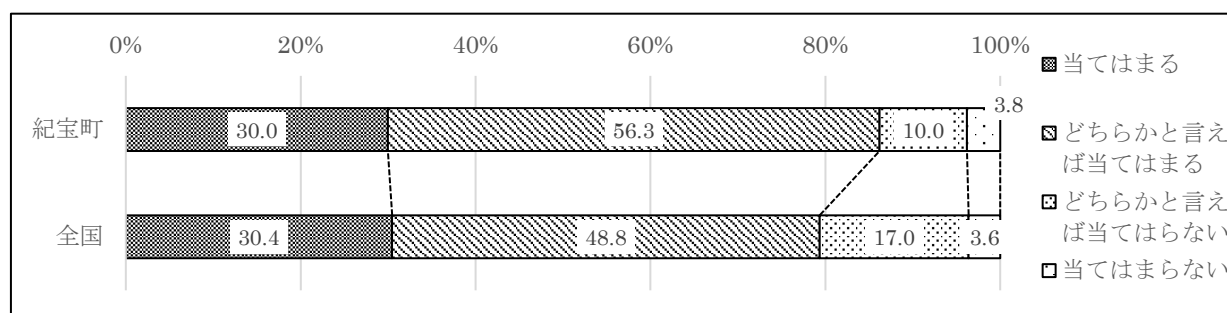
Q2. 各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



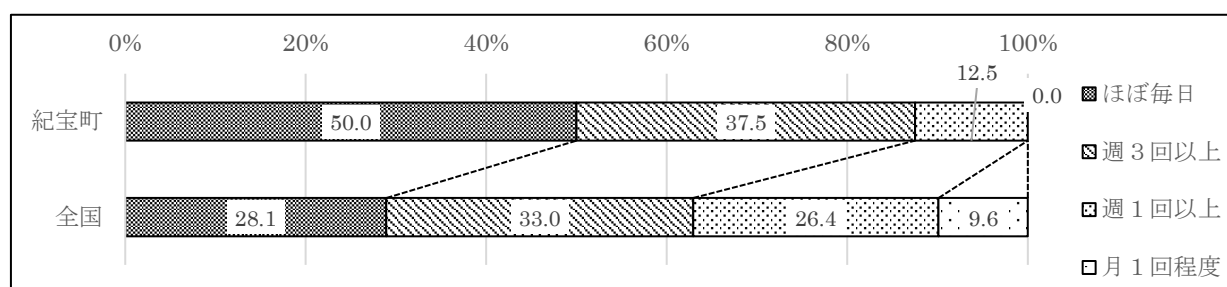
Q3. 国語・数学・英語の授業の内容はよくわかりますか。



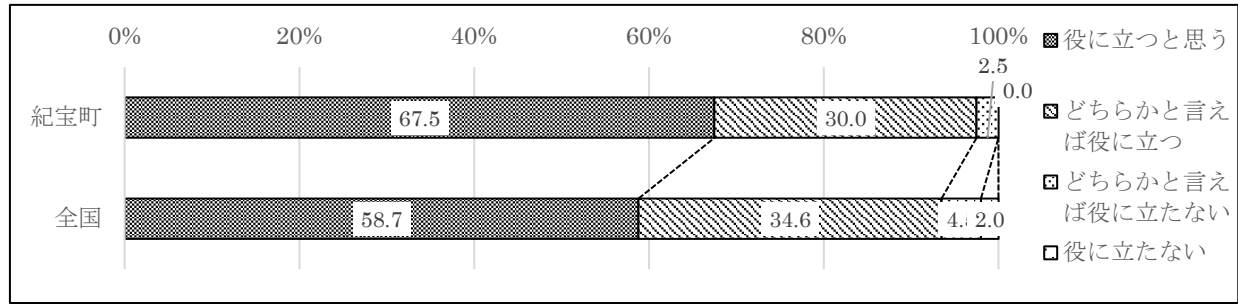
Q4. 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



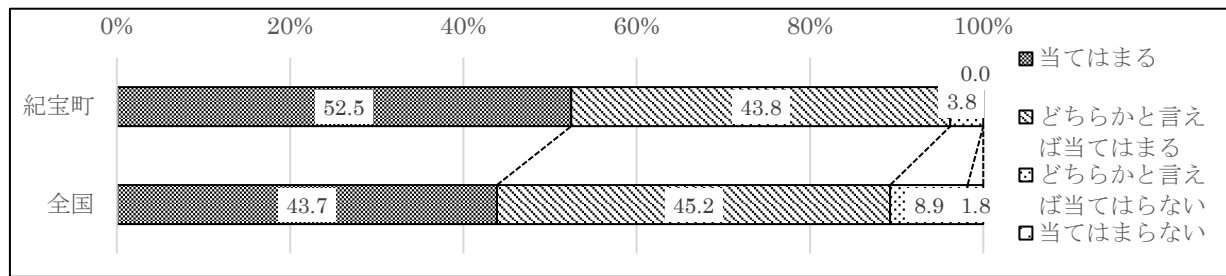
Q5. 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



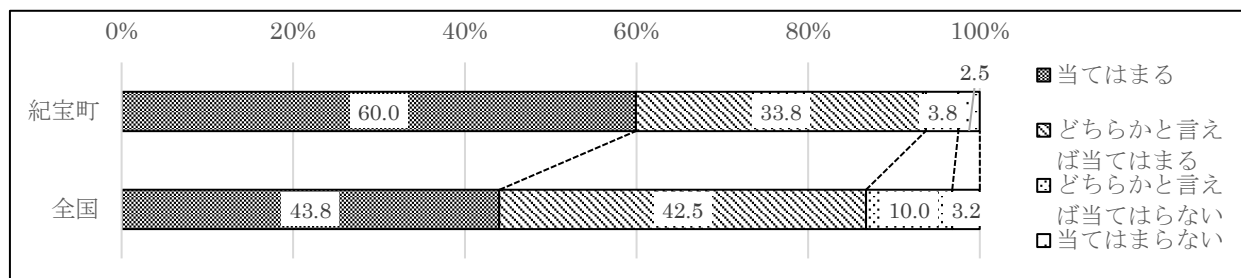
Q6. PC・タブレットなどのICT 機器は勉強の役に立つと思いますか



Q7. 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



Q8. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



◎[中 Q1]:中学生に対する「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対し、肯定的な回答は、全国平均を 5.8pt 上回る 87.6%となっています。今後も子どもたちにとって満足感が得られる学校をめざし、学習面や生活面での充実をさらに進めていく必要があります。

◎[中 Q2・Q3]:「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、国語、数学、において全国平均を上回っていますが、英語ではやや全国を下回る結果となっています。都市部と違い、この地域では日常生活において英語必要とする場面が少ないことが要因の一つとして考えられます。「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の問では、肯定的な回答が全国平均を上回っています。各校の授業改善の取組の成果であるとともに、日頃から子どもたちが前向きに学習に取り組んでいる結果であると言えます。今後も一人ひとりの子どもたちが輝くことができる授業づくりを進める必要があります。

◎[中 Q4]:「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」に対して、肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも 7.1pt 高くなっています。各学校が学習基盤としての言語活動を大切にしながら授業づくりをすすめていること、子どもたちが主体的に授業に取り組もうとしている姿が伺えます。

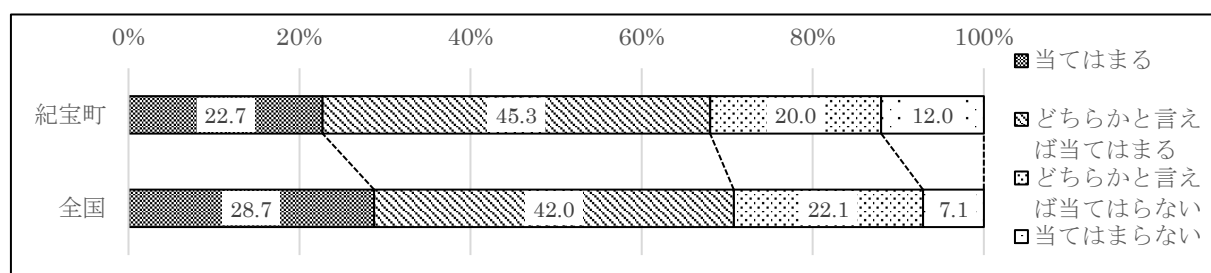
◎〔中 Q5・6〕：中学生においても ICT 機器の有用性を感じていることが伺えます。中学生の結果では、「ほぼ毎日使う」と答えた割合が 50%、「週に 3 回以上」を加えると 26.4pt 全国を上回り、その有用性においても全国平均を 4.2pt 上回っています。各校における教育条件整備の充実と各学校での授業改善の結果であると言えます。

◎〔中 Q7〕：この項目では、各校における「教員との関わりと子どもたち授業の満足度」が結果から読み取れます。中学生の 96.3%が先生との関わりに満足しており、わかりやすい授業を構築するための授業の工夫・改善の効果と言えます。子どもたちが安心して学べる、一人ひとりの学びが保証される環境づくりを今後も目指していく必要があります。

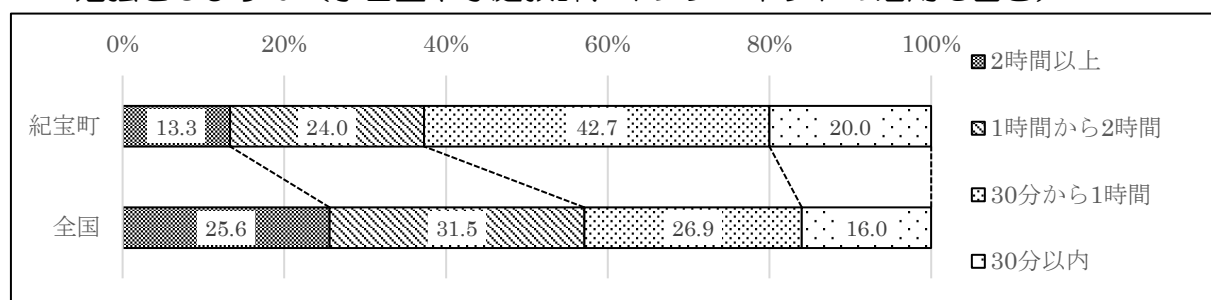
◎〔中Q8〕：小学校の結果と同じように、中学校においても互いに「訊きあい、学びあい」を大切にした授業改善が進められ、自他の想いを大切にしながら主体的に取り組んでいる子どもたちの姿が伺えます。肯定的な回答は全国平均を 7.5pt 上回っており、子どもたちの豊かな心を育む上で重要な取組であり、今後も大切にしていきたい視点であると言えます。

家庭学習・生活習慣について 【小学校】

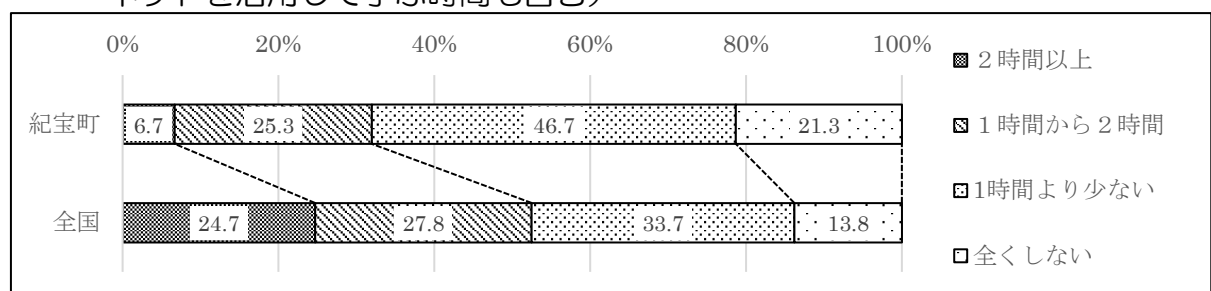
Q1. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（授業の予習や復習を含む）



Q2. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）

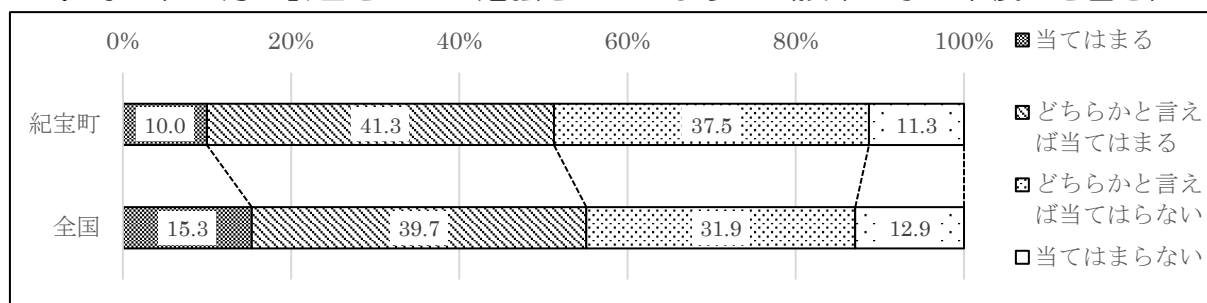


Q3. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

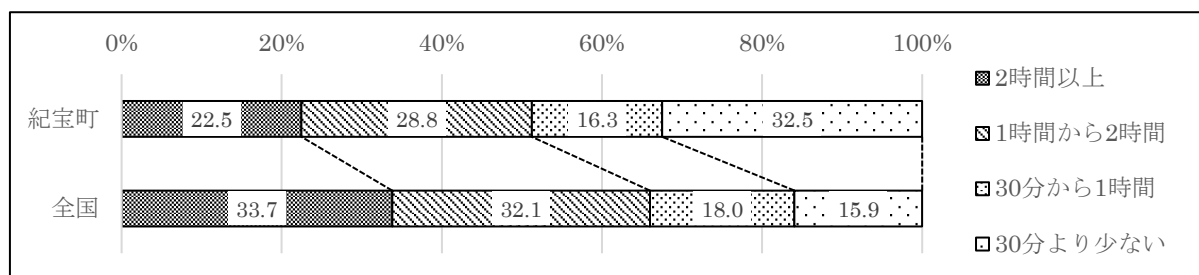


【中学校】

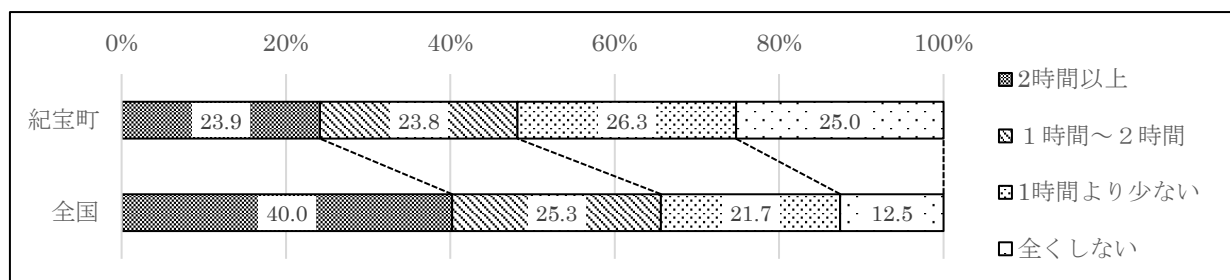
Q1. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（授業の予習や復習を含む）



Q2. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師、インターネットの活用も含む）



Q3. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



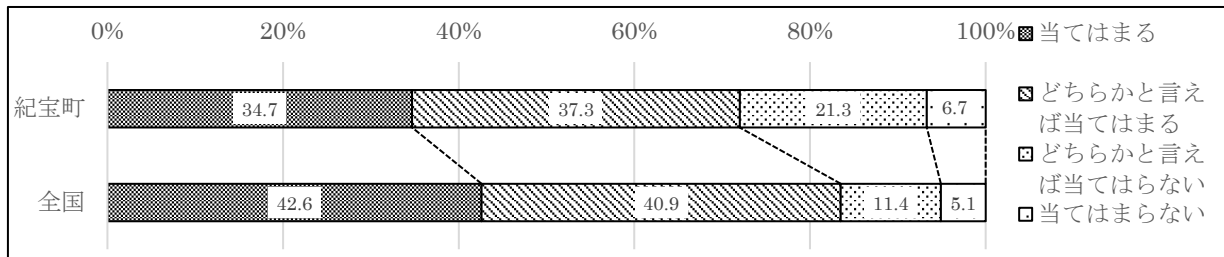
◎ [小・中 Q1]: 「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答をした小学生の割合は、全国より2.7pt下回っています。中学生は、全国を3.7pt下回っており、自らの課題を明確にして、計画的に取り組む姿勢を育てていく必要があります。

◎ [小・中 Q2]: 家庭学習の時間は、「2時間以上」と「1時間～2時間」の割合を合わせて、中学生が14.5pt（前回：-5pt）全国を下回っています。小学生も19.8pt下回っていますが、前回（-25pt）と比べてわずかに改善傾向が見られました。学習の定着には家庭学習の充実が大切であり、学校と家庭が協力して子どもたちの意識を高める必要があります。

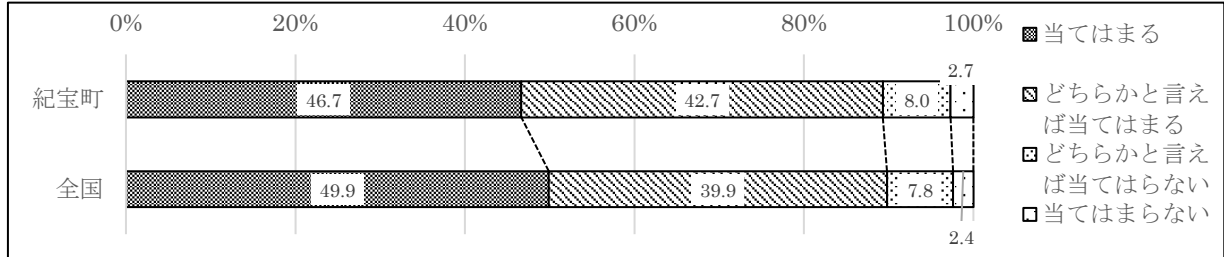
◎ [小・中 Q3]: 休日の家庭学習時間において2時間以上勉強するという割合は、全国平均を小学校で20.5pt、中学校で17.6pt下回っており、「全くしない」という解答がいずれも20%を超える数値となっており、大きな課題であると言えます。4月に配布しました「家庭学習のすすめ」にしたがって、再度指導を徹底していきたいと考えます。

自尊心・規範意識などについて【小学校】

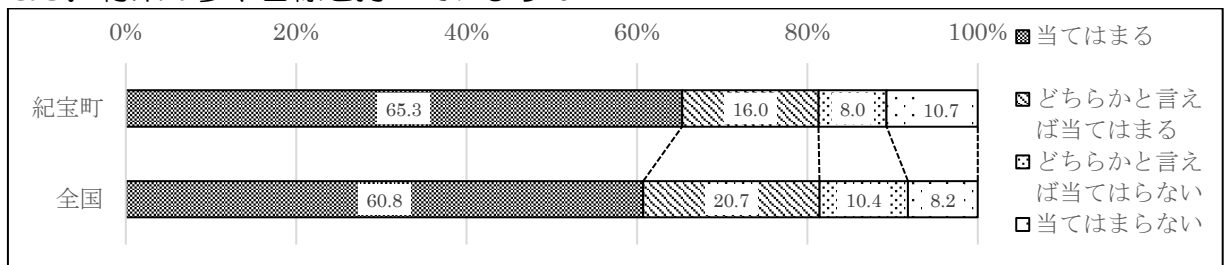
Q1. 自分には、良いところがあると思いますか



Q2. 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか

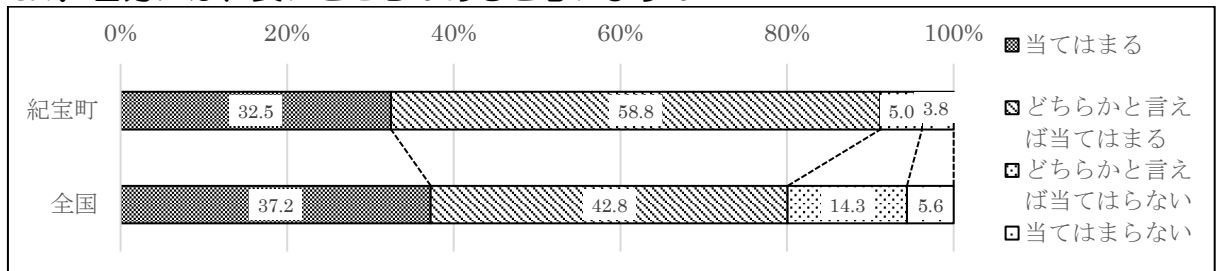


Q3. 将来の夢や目標を持っていますか

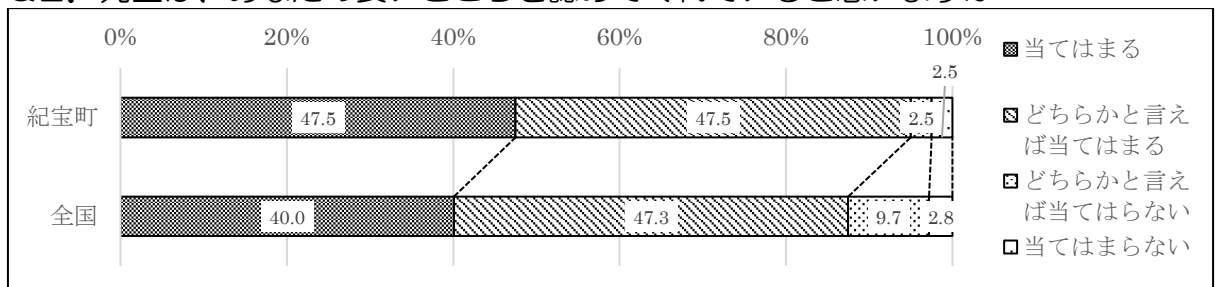


【中学校】

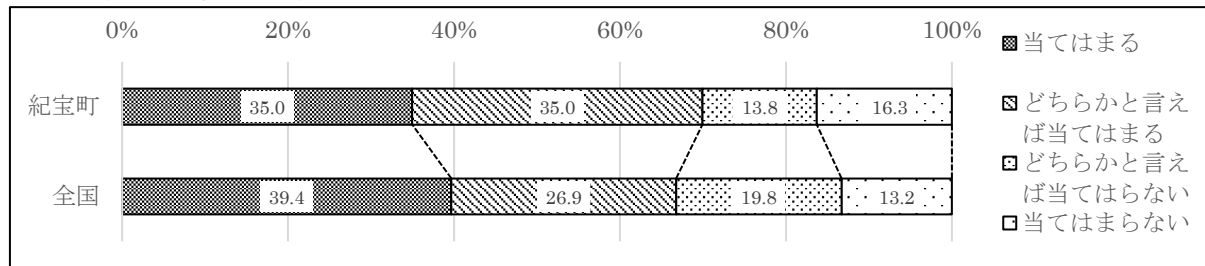
Q1. 自分には、良いところがあると思いますか



Q2. 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか



Q3. 将来の夢や目標を持っていますか



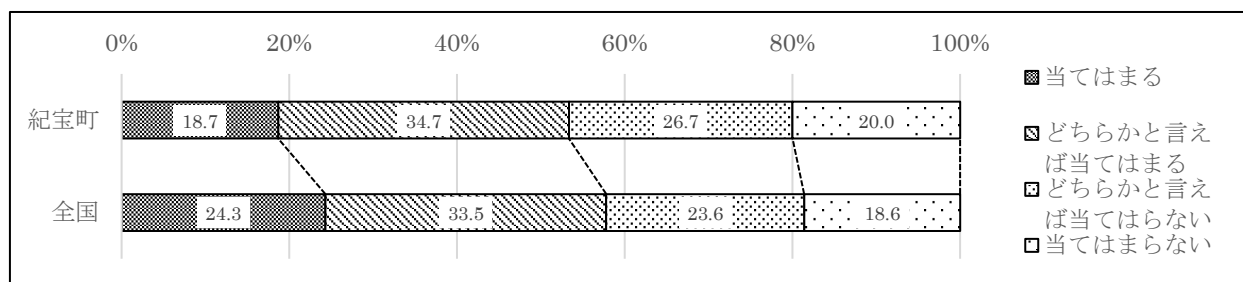
◎ [小・中 Q1] 「自分には、よいところがある」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国より 11.3pt 高く、前回 (5.5pt) より改善されています。逆に小学生では、全国より 11.5pt 低くなっています。学校・家庭・地域が一体となって、自己肯定感を育むことを大切にしていきたいと考えます。

◎ [小・中 Q2]: 「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は 95% となっており、前回 (91.4%) を上回っています。小学生では、89.4pt (前回 95.5%) となっています。どんな場面でも子どもの思い聴き、励まし自信を持たせてあげることが大切にして接していく必要があると考えます。

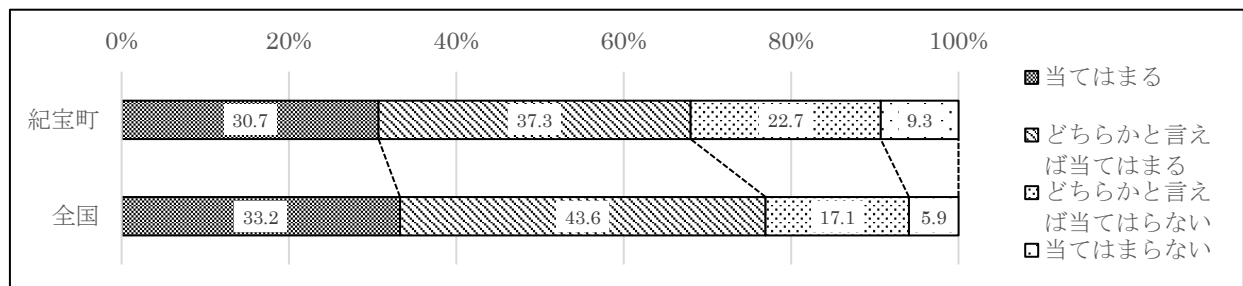
◎ [小・中 Q3]: 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国より 3.7pt 高くなっています。また、小学校では全国よりもやや下回るものの、肯定的な回答は昨年度よりも高くなっています。この質問に対する肯定的な回答は、年々改善の傾向にあります。子どもの意欲や取り組もうとした姿勢を認め、努力することを後押ししていく必要があります。

地域・社会との関わりについて 【小学校】

Q1. 今住んでいる地域の行事に参加していますか

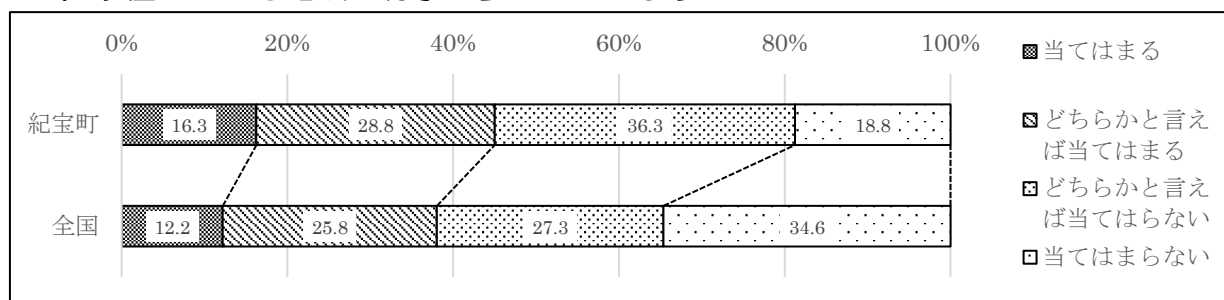


Q2. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

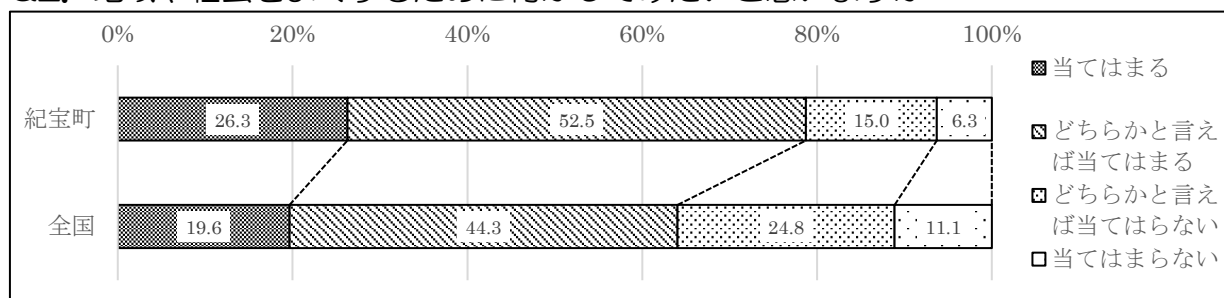


【中学校】

Q1. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



Q2. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



◎〔小・中 Q1〕：社会地域との関わりについての設問では、小学生と中学生で肯定的な回答の割合に違いが見られました。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目に対して、肯定的な回答をした中学生の割合は、全国より 7.1pt 高くなっていますが、小学生では、全国より 4.4pt 下回っています。紀宝町の小中学校ではコミュニティ・スクールとして地域の方と関わる機会はあるものの、新型コロナウイルス感染予防対策として行事の開催が制限された影響を受け、地域と子どもたちとの関わりが薄れたことが結果に表れたのではないかと考えられます。令和 5 年 5 月 8 日に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症に変更されたことにより、さまざまな地域行事が日常を取り戻し開催されてきています。年々増加傾向にあった小学生の地域行事への参加についても変化が見られると考えます。

◎〔小・中 Q2〕：「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という項目でも、中学生の肯定的な回答は、全国平均よりも 14.9pt 上回る 78.8% となっております。前回の「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」の項目との比較では 18.2pt 上回っています。

小学生の肯定的な回答の割合は、全国よりも 8.8pt 下回っていますが、前回との比較では 14.1pt 増加しており、郷土愛の高まりが見られ、紀宝町の子どもたちが地域の方と関わりながら、健やかに育っていることが伺えます。家庭・学校・地域が協力し合い、子どもたちを育む環境づくりを進めていかなければなりません。

5. 「学校質問紙調査」の特徴的な傾向

学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関して学校長が回答する調査です。特徴的な傾向を考察します。

紀宝町の小中学校の【強み】 全国平均を上回った項目

《組織的な学校経営の推進》

- ◎児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを確立していますか
- ◎前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか
- ◎前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか
- ◎言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか
- ◎学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

- ・学校を取り巻く多くの課題を解決していくためには、身近で起こっている様々な変化を敏感に察知し、学校が一つの組織として情報を共有することが重要です。そのことによって、適切な判断や対応に結びつけることができます。紀宝町の小中学校においても、学校長のリーダーシップのもと、PDCA サイクルによる改善活動、教職員の協働による組織的・継続的な取組等が進められていることが伺えます。紀宝町の児童・生徒たちの成長や学力向上に向け、今後とも各学校間で連携しながら継続した取組として充実をしていきたいと考えます。

《授業の工夫と改善に向けた研修等の推進》

- ◎授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか
- ◎個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）
- ◎前年度までに、児童・生徒一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
- ◎調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか
- ◎授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
- ◎前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか(+7pt)
- ◎令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか
- ◎教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか

- ・町内の全ての小中学校では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の分析結果を踏まえながら、授業の工夫・改善に取り組んでいます。今後も保護者のみなさんの理解を得ながら、子どもたちが学びに向かう力を育てていきたいと考えます。

- ・ICT環境の整備により、紀宝町内の各学校では積極的に授業でPC端末等を活用し、「協働的な学び」と「個別最適な学び」の充実に努めています。また、紀宝町学力向上推進協議会において各学校が連携し、大学教授等の講師を招聘した公開授業研究会などを通して、教職員の教育力と指導力の向上に取り組んでいます。紀宝町内の学校が連携し、教職員研修を充実させることにより、確かな学力の定着と向上に取り組んでいることが伺えます。

《「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善》

- ◎授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
- ◎児童・生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
- ◎児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
- ◎前年度までに、児童・生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか
- ◎前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

- ・児童生徒質問紙調査においても「自分で考え、自分から取り組む」の質問に対する肯定的な回答は、全国平均よりも小学校で1.2pt、中学校で7.1pt上回り、「考えがうまく伝わるよう工夫して発表する」においても全国平均より小学校で8.3pt、中学校で15.4pt上回っています。紀宝町の各学校が「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にしながら授業づくりを進めていることが伺えます。

《地域とともにある学校づくり～地域との関わり～》

- ◎保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか
- ◎コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか
- ◎令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）

- ・昨年度まで新型コロナウイルス感染症により、さまざまな行事の開催が制限を受けた中、紀宝町内の学校では、地域・保護者と協力して様々な工夫や努力を重ねながら多くの活動を進めることができました。児童・生徒質問紙調査の結果にもあるように、地域の方々からさまざまな形で関わっていただき「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という子どもたちの肯定的な回答が増えています。また、学校質問紙調査結果からも、地域のみなさんが子どもたちの成長に寄与していただいていることが伺えます。
- ・今後も、地域との関わりを大切にした教育活動を充実していくために、「地域とともにある学校(=コミュニティ・スクール)」として、「紀宝町学校運営協議会連絡協議会」を中心に、継続して各学校の活動を支援していきたいと考えます。

《授業の工夫と改善に向けた研修等の推進》

▲前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか

- ・紀宝町では、学力向上推進協議会を組織し、校種を越えた公開授業研究会や情報交換会を実施しています。また、全国学力学習状況調査の結果分析等による協力共同体制が確立されており、その取組頻度は全国の平均値を上回っています。しかしながら、「教科の教育課程の接続や教科に関する目標設定など、教育課程に係る共通の取組」にやや課題が残る結果となっています。学力向上に向けて、さらに充実を図る必要があります。

《校務の効率化と児童生徒の ICT 機器の活用法》

▲調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか

▲児童生徒一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

▲ICT を活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいますか

▲児童生徒一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

- ・校務を効率化していく上でも、ICT の活用が重要な手段となります。学校質問紙の結果からは、「ICT を活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか」という問いに対して全国を上回る結果が出ていますが、学校現場では、まだまだその機能を十分使いこなしていない現状が伺えます。各学校の教職員が、一人ひとりの子どもとしっかりと向き合っ、寄り添うことができる時間を確保するためにも、今後もサポートしていく必要があると考えます。
- ・児童生徒質問紙調査より、紀宝町の学校では、授業の中で ICT 機器を週 3 回以上使用している割合は、全国より高いことが伺えます。しかし、学校質問紙調査では「調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の問いに対し学校質問紙の回答では全国比:-31pt という結果となっています。今後は、PC 端末の持ち帰りによる家庭での活用、そして学校に登校しづらい子どもへの支援方法とともに、授業での有効な活用方法について充実させていく必要があります。
- ・学校質問紙からは、児童生徒一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの端末をどの程度家庭で利用できるようにしているかという質問に対し、全国のデータでは、小学校で 30%強、中学校で40%の学校が「毎日持ち帰っている」を選択しています。活用の仕方を工夫し、町内小中学校の課題である「家庭学習の充実」につなげていくことも大切であると考えます。

6. 紀宝町教育委員会の取組 =今後の改善に向けて=

今回の学力・学習状況調査の結果より、児童生徒や各学校の「強み」「弱み」等の傾向を捉え、具体的な施策に反映していきます。また、各学校の主体的な取組を支援する主な事業として、以下のような児童・生徒の学力向上の取組を継続し推進します。

☆紀宝町学力向上推進協議会の充実と教職員の教育力・指導力の向上を目指した授業の工夫・改善、全職員の協働による学力向上の取組の継続的な検証サイクルの確立

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析と活用

- ・各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善
- ・県教委作成ワークシートや過去問題による授業・家庭学習への活用

※学力向上に向けた各学校の取組と支援

- ・すべての教科における「主体的・対話的で深まりのある学び」の実現に向けた確かな学力の育成
- ・授業の工夫と改善の取組を通じた、学習の基盤としての言語活動の充実

※町内の各学校の公開授業研究会等への支援

- ・先進的授業研究に学ぶ機会としての著名な大学教授等の講師の招聘
- ・各学校の授業改善と相互交流による優れた実践の共有及び活用

※ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

☆各学校の授業力向上と指導方法の改善のための校内研修への支援

- ※各学校の校内研修へ町教育委員会指導主事・アドバイザーを派遣
- ※県教育委員会や紀州教育支援事務所指導主事からの支援・助言

☆サマースクール・ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による自主学習の習慣化

☆教員の授業力向上と指導方法の改善を図るための紀宝町研究指定校事業（毎年2校を指定）の実施や石川県中能登町教職員との視察交流研修の推進

☆紀宝町立図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取組や学校における読書活動充実のための支援

☆県教育委員会より「ICTを活用した『わかる授業』推進事業」のモデル校を指定

- ※ICTを活用した効果的な習熟度別少人数指導の推進（町内小学校1校が指定）

☆「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組

保護者・地域の皆様の日ごろからのご理解とご協力に感謝申し上げます。今後も、県教育委員会と連携しながら、これらの取組を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童・生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。